

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2672700289 | | |
| 法人名 | 医療法人 弘愛会 西村内科 | | |
| 事業所名 | 医療法人 弘愛会 西村内科 グループホームさくらプラザ | | |
| 所在地 | 京都府舞鶴市北浜7-2番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年8月11日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年12月16日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2672700289-00&PrefCd=26&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成28年9月2日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療との連携がうまく図れており、24時間体制で利用者の安全、健康管理に努めている事で利用者様に安心を提供できている。季節事に旬の食材を取り入れ、味はもちろん目でも楽しんで頂ける様食器や盛り付け等に工夫をし食事を楽しんで頂けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは理念に尊厳と自立が守られ、地域の中での家庭的な暮らしを支援するなどが謳われ、理念を基に「一緒にゆったり楽しい共同生活」との標語を作り、職員は利用者の力を活かした生活の支援を大切に支援しています。食事作りでは利用者として献立を考え、買い物から調理、後片付けも一緒に行うと共に、職員は季節の食材の使用や家庭的な食器も使い更に食事が楽しめるようにしています。また毎月のミーティングでは利用者全員の状況について話し合い細かな変化も捉え支援方法を考え共有し、特に排泄についてはトイレでの排泄を基本に排泄用品の使用も少なくなり自立に向かうよう支援しています。母体が医療法人であり医師の往診が多く訪問看護師との連携も密に取りながら、重度化する利用者の健康管理や希望にそった終末期支援にチームケアで取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | リビングへの貼り出しを通して共有している。また、職員に理念の書いたカードを配布し、常に共有出来る様努めている。 | 開設時に職員の意見を聞きホームの理念を作成し「一緒にゆったり楽しい共同生活」との標語も掲げ、職員の入職時にわかりやすく伝えています。玄関に掲示し名刺大に印刷したものを職員に配り意識できるようにし、ミーティングで理念にそった支援となるよう話し合い実践に繋げています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入。地域の地蔵盆やお祭りに参加。近隣店舗を利用したりして交流を図っている。ご近所様とあいさつを交わしたり、情報を頂いたりと交流をしている。 | 日々の散歩等で近隣の方とあった際には挨拶を交わし、運営推進会議や自治会から情報をもらい、地蔵盆や祭りに利用者や職員が地域の清掃に参加しています。またホームの餅つきに近隣の方々の参加が増え交流したり、地域包括支援センターと共に地域や小学生を対象とした認知症サポーター講座を開催しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している | 利用商店を中心に理解をお願いしたり、玄関先に認知症サポートの表示をし、見学者の方の相談を受ける等の活動を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事やホーム内の出来事を報告し、意見を頂いている。また、町内会等の情報を頂き運営に活かしている。 | 運営推進会議は元民生委員や老人会の方、市職員等の参加を得て年に6回開催しており、時々家族の参加も得られています。ホームの行事や人事などの運営状況の報告を行い、意見交換をしています。意見を言いやすい雰囲気を作り、参加者からこいのぼりがきれいに見える場所を教えてください。外出先にししたり、台所の導線についての意見を受け家具等の配置を検討する等、多くの意見が生まれ運営に反映できるよう取り組んでいます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議時の報告を通じて関係の構築に努めている。 | 運営推進会議に市職員の参加があり、ホームの状況を知ってもらいアドバイスを受けたり、会議の案内を持参する際に相談する機会にもなっています。また市のグループホーム連絡会は事務局を担っていることもあり研修を共同開催し、職員が参加する等協力関係を築いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間以外は施錠はせず開放している。身体拘束についてはしないケアの重要性を認識し、取り組んでいる。 | 身体拘束に関する市の研修を受けた職員がホームで伝達研修を行い職員にその内容を周知しています。言葉による行動の制止について等事例をもとにミーティングで話し合い具体的な対応を学んでいます。利用者が外に行きたい様子があれば寄り添い対応し一緒に出掛けることもあり拘束感のない暮らしを支援しています。 | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修や法人内委員会の指導やマニュアルを通じて、学習し、防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見人制度を利用されている利用者がおられ活用し、支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書。契約書を用いて説明を行い、質問等に対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 外部及び事業所の相談窓口を重要事項説明書に明記し案内している。また、事業所内に意見箱を設置し、要望や意見を運営に活かすと共に、ミーティングや連絡帳、運営推進会議で報告する事としている。 | 家族の面会時には利用者の日頃の様子を伝え、意見や要望を聞いています。コミュニケーションの中から得られた情報から居室の清掃の改善に繋げる等、サービスが向上するように取り組んでいます。今年春まで発行していた便りを再開し、写真等でも日々の様子を伝えながら更に意見を言いやすいようにしたいと考えています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のミーティングや個人相談を通して意見や提案の汲み上げに努めている。また、法人全体の運営委員会があり、その際にも報告している。 | 日々職員が思っていることを言いやすい雰囲気を作り意見を聞いたり、管理者は職員の様子を観て個別に面談を行い話を聞いています。また毎月のミーティングでも業務改善について意見を出し合っています。必要に応じて法人に意見をあげ、夜勤手当の改善や物品購入に繋がっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 研修参加費、資格試験の補助金、各手当、昇給、休憩室等の整備を通じて福利厚生に努めている。また、介護職員処遇改善交付金の支給を受けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 院内研修や資格取得の為の研修等に参加しスキルアップに努めている。 | | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 府下・市内のGH連絡会に加入し、外部研修会や意見交換会を通じて交流を図り、運営に活かしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人が不快に感じたり、依存しすぎない様話し合い個別対応をする事によって信頼関係を築く努力をしている。また、馴染みの家具等を取り入れ安心を確保出来る様努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時を主に、ご家族様の気持ち等の把握に努め、適切な選択や課題解決に向けての相談を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族からの情報や、ケアマネと連携を図り、必要なサービスや今後予想される可能性を説明。求められるサービスが提供出来る様、老人ホームや、希望される他のサービスも並行し申請して頂く等の対応を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る事は見守り、出来ない事をへの援助に努め、利用者1人1人の能力を見極め、本人の意思を尊重し、活躍の場が持てる様支援をしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時、本人の近況やその他情報を共有し意見交換を図りながら行事への参加等を通じて共に過ごす機会を持てる様促している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 商店への外出やその他地域行事への参加を行い支援している。また、電話やはがきを利用し関係が途切れない様努めている。 | 友人や親せきの面会があった時には利用者の様子を伝え、居室に椅子を準備したりお茶を出しゆっくり過ごしてもらえるようにしています。家族と親戚の集まりや墓参り等に出かける際にはホームでは外出の準備を行い、馴染みの美容院へは家族と行く方や職員が同行することもあります。以前に行っていた地域行事に出かけたり勤めていた職場がバラ園になり見に行く等、本人の希望を聞きながら個別に外出支援をしています。 | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食堂の座席やくつろがれる場所の把握や調整を行いトラブル防止に努め、一緒にお話し出来る空間を作り孤立しない様注意している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 個別には対応出来ているも、事業所としてはなかなか実践できていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族からの聞き取り、意向の汲み上げを行い、把握に努めている。 | 入居時に直接面談を行い、生活歴や趣味から暮らし方の希望を聞いたり、以前のサービス担当者から情報を得て意向や思いの把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中から得られた情報を加えながら職員間で共有しています。思いの把握が困難な場合は家族に相談したり、様子や表情等からミーティングで話し合い本人本位に思いを検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族からの聞き取りやケアマネ・サービス事業者からの情報提供で把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人のペースや、混乱しやすい状況等の把握に努め、落ち着いて生活して頂けるよう心掛けている。個人記録や申し送り時の特記事項等を確認しながら日常の様子を伺っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族や知人、医療関係者や介護職員で検討し作成に反映させている。 | 本人の思いや家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。毎月ミーティングで個々の利用者の状況について話し合い、3ヶ月毎にモニタリングと評価を行い介護計画を見直しています。見直しに当たっては診察を受けた時の医師や訪問時の看護師からの情報を介護計画に反映し、年に一度は再アセスメントを行っています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録やミーティング時に情報を共有し検討、見直しを行い、計画書に反映させている。 | | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 体調不良時や終末期の対応、通院や外出など、状況に応じてサービスを提供している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防団への協力等地域資源の把握に努め、町内会の方と情報を共有しながら安心・安全に生活を送れる様努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医や医療機関と協力し医療面でのサポートを行っている。終末期も往診対応をして頂いている。 | 入居時にかかりつけ医を継続できることも説明し選んでもらい、以前のかかりつけ医を継続している利用者は家族が通院支援をする事を基本としていますが、家族が行けない時や状況によっては職員が支援しています。母体が医療法人であり協力医からの週に2回往診があり、週に1回の訪問看護による健康管理を受け24時間体制で連絡でき指示を受けたり対応してもらっています。月に1回訪問歯科による治療を受けたり希望する歯科医院に家族と通院している方もいます。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定時や特変時のバイタルチェックや観察等により異常の早期発見に努め、報告連絡を行い指示を受けている。また、週2回の訪問あり。医療連携体制加算を算定している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 情報提供書の提出やカンファレンスへの参加。退院時の調整を行っている。入院中には必要に応じ面会し、入院中の様子を事業所に持ち帰り共有することで、退院後のケアに活かしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に終末期の対応を説明し意向を確認している。終末期や急変時に再度意向の確認を行い、チーム全体で支援出来る様、検討・対応をしている。 | ホームで支援できることなどを伝え、入居の時点で重度化について本人や家族に意向を聞いています。重度化した時に改めて医師や看護師、家族、職員とが話し合う機会を持ち方針を決めて支援しています。家族と連絡を密に取り状況を伝え、看護師にアドバイスをもらい個々の支援方法を具体化し医療と連携を取りながら終末期の支援を行っています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命講習の受講や院内研修等を通じて実践力を身に付けている。AEDを導入し使用についての研修も行っている。 | | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の避難場所やマニュアルを事務所に掲示している。避難訓練については近年実施できておらず。 | 毎年2回の消防訓練を行っていましたが、昨年度は実施できず今年度実施予定をしています。以前の訓練は地域の方に声をかけ誘導の協力が得られ、運営推進会議で報告を行っています。また缶詰や米等の備蓄をしています。 | 災害時に備えて年に2回昼夜を想定した防災訓練の実施を定着させ、良好な関係である地域の方々と協力体制作りに向けても取り組んでいかれることを期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の人格を尊重し、声掛けや対応の検討を行う。必要時は統一を図り、ケアに努めている。 | ホームの理念に尊厳を大切にすることが謳われており、プライバシーや接遇についての法人内研修や教育用DVDを用いて職員に周知しています。個々を尊重した対応を心がけ、排泄の支援時の声の大きさや希望にそって同性介助での入浴などにも配慮しています。不適切な対応があれば都度注意し合っています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人に意見を求め、本人が選択して頂ける場面では答えやすい形を例に挙げ、意思表示が出来る様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の意思や希望を聞き入れ、その人のペースやリズムを職員が把握し、大切にしながら援助に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みを把握し、本人や家族に意見を求め、その人らしさが保てる様支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食時メニューと一緒に決め、買い物、調理等に自由に参加して頂ける環境づくりに努めている。 | 業者の食事も取り入れながら、ホームで昼食は利用者と献立を決め一緒に買い物に出かけ食事作りをしています。利用者は食材を切ったり、調理の他下膳や食器洗いまでのできることに携わり、食事の時間は会話を楽しみながら職員も一緒に同じものを食べています。月に1度いちご大福等のおやつを手作りし、年に1~2回は外食に出かけたり、うな重や弁当を買ってくるなど、食事が楽しみなものになるよう支援しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月に1度栄養士による指導を受け、疾患、体調に応じた栄養摂取を心掛けている。また栄養バランスが偏らない様、1食は業者からメニュー、材料を取り入れている。 | | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | うがいや義歯の洗浄の声掛け、援助を行い対応している。また、月に1度歯科医師の往診時に指導を受けている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンの把握に努め、オムツ類は必要時のみの使用とし、保清と自立に努めている。 | 日々の記録から個々の排泄のパターンを把握し、その人のタイミングでトイレで排泄できるように支援しています。毎月のミーティングで支援方法や使用する排泄用品について話し合い、利用者の力を活かし自立に向かうよう取り組んでいます。布の下着とパッドの組み合わせにしたり夜間のみ紙パンツを使用する方がいる等、個々に合わせた支援をしています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ラジオ体操や歩行等の運動。水分摂取、食物繊維質の多い食品の提供、整腸剤の使用等で便秘の予防と改善に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回の入浴で、希望時間を尋ねたり、タイミングを見て声掛けを行っている。入浴日以外も希望に対応している。入浴時間や湯加減も本人に合わせて提供している。 | 入浴は週に2回日中で希望の時間に入ってもらっており、希望があれば夕食後の入浴や回数を増やすことにも対応しています。一人ずつ湯温や長さなどはその人に合わせ、好みのシャンプーやリンス、保湿剤を持ってきている方もいます。またゆず湯をしたり会話をしながら入浴してもらっています。強く拒否する方はおらず、会話をしながら自然に入浴に繋がるよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室の照明や空調、寝具に配慮している。また昼寝を勧め、休息をとって頂き、疲労や混乱が軽減されるよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報提供書により、用法を確認し提供時には効能を説明し確実な服薬を心掛けている。観察結果は薬剤師・医師に報告・相談し調整をして頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食時作りや歌等、自分の得意な事で活躍して頂いたり、本人の意思、体調をにに応じ外出や自分の時間を持って頂ける様支援している。 | | |

グループホームさくらプラザ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや散歩、買い物等の日常の外出や、お墓参り、夏祭りの参加等の外出支援を行っている。また、広告や地域のイベントのポスターを見て希望を聞いている。 | 日常的に職員体制のある時にはドライブや散歩に出かけたり、食材の買い物に行っています。桜やつつじ等の花見や紅葉狩り、初詣等に行き、季節を感じられる外出支援をしています。誕生日には希望を聞き妹に会いに行くなど個別支援を行い、家族と墓参りや外食等に出かけています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が難しく、事業所で管理している。利用者の希望により使用時にお渡しする様にしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在、自ら電話を希望される方はおられないが、希望時には電話をかけて頂き、掛かってきた電話に対しては近況を添える等して繋がりが保てる様援助している。年賀状等の季節の便りを出したりする支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 空調や照明に臨機応変に対応している。季節の花や作物を飾ったりしている。また、ラジオや歌謡曲、ヒーリングソングをかけたリ、心地よい空間の提供に努めている。 | 共有空間は食堂とリビングが分かれるように棚を置いたり、壁にそって多くの椅子を設置し利用者が思い思いに過ごせる場所を作っています。兜やひな人形、クリスマスツリー等を飾ったり、生花や畑で採れた野菜を飾り季節を感じられるように配慮しています。毎日利用者と一緒に掃除を行い、空気清浄機や加湿器を設置し心地よい空間作りをしています。絵画を飾ったり家庭的な家具を置き落ち着いて過ごせる共有空間となっています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ベンチやソファ等椅子を多く配置し、好きな場所でゆっくり過ごして頂ける様配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | タンス等の家具、位牌や写真等を持参して頂き、馴染みの空間を再現し、落ち着いて生活して頂ける様努めている。 | 入居時に使い慣れたものを持って来てもらうよう伝え、タンスや小引き出し、冷蔵庫、テレビ、椅子等を持参し、本人と相談しながら配置を決めています。家族の写真や好みの野球球団のカレンダーを飾ったり、好みのビデオを持って来て居室で見られる方もおり、その人らしい居室となっています。希望によりベッドではなく布団を敷き休むこともできます。掃除は週に1度シーツ交換の際に丁寧に行い、日々には気付いたときに行っています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日めくりカレンダー、新聞、雑誌等の置き場所に配慮し自分で動いて目的が達成出来る様援助している。また、その方に合った居室の家具の配置や転倒等事故の無い様な環境づくりに努めている。 | | |